## 緑園中学校

坂本幸四郎先生率いる緑園中学校でも、木管を中心とした修理が主でありました。クラリネットの接続部のコルク交換も数本ありました（写真）。

実は各学校にもあることなのですが、十数本あるクラリネットが、ふたを開けてみると違うメーカーの部品を組み合わせていると言うことがあります。長年使っていて、調子が悪いので使っていないクラの部品と交換してしまっている、ということですが、こうなるとお手上げです。もちろん止むに止まれず、そうしなければならない事情が、手に取るようにわかります。

また修理は出来なかったのですが、十本近い使っていないフルートも、目視で状況を確認してもらい、使える使えないを見てもらうなど、効率的な修理を行いました。

## 今後の課題

今年度の予算でついた「教材備品の整備」費は、多くの学校で喜んで頂きました。そして特に吹奏楽部についた修理費の20万円は、今の吹奏楽部の実態を切実に訴えたその思いが、市長に届いたと確信しております。

各学校の楽器の状況は、調査をするたびに、悪くなることはあっても良くなるような状況には至っておりません。これはやむを得ないことだと思います。また修理の仕方にも問題があります。限られた予算で、さらにその一部だけを修理しても良くなるはずもなく、特に古い楽器に対しては、結果応急処置的な修理を何年も続けてきました。応急処置はどこまで行っても応急処置でしかありません。ここを改善できれば、「維持」はできると思います。

今の各学校の楽器を少しでも維持していくためには、集中的な楽器修理を年1回は続けることだと思います。そして単品でかかる修理代を軽減し、さらに単品修理の場合は、応急処置ではない修理をする。そういう努力が、今現在の状況を維持する最善のやり方ではないかと思います。

## 年1回のメンテナンスを

もし年1回、このような集中修理を行えば、そのまま「メンテナンス」となります。帯広市の吹奏楽部はとても古い楽器を使っています。今までのような単発の修理では楽器の維持は非常に難しいでしょう。しかし部活動の予算にも限界があります。

私はできる限りこの集中修理を、先生方のご理解を得られれば、毎年続けていきたいと思います。一生懸命音楽を志す生徒たちのため、そして未来の音楽を志す子供たちのためにも。





# ふじさわ通信

**特別号**

帯広市議会議員
藤澤昌隆

**平成29年度の教育予算では「教育備品の整備」として小学校に40万円、中学校には50万円の予算が割り当てられ、さらに吹奏楽部には20万円の修理等の予算が付きました。大いに活用して頂きたいと思います。そして今年も楽器集中修理を行いましたのでご報告をいたします。**

## 吹奏楽ブーム

私自身、高校時代には吹奏楽部に所属し、地区大会、全道大会を経験しました。今、テレビではブラスバンドの特集があったり、またブラスバンド部をテーマに、土屋太鳳主演の映画「青空エール」も最近上映されました。

ちなみにこの映画のモデルとなったのは、私の母校である札幌白石高校の吹奏楽部。今年白石高校創立40周年の記念行事があり、私も卒業生として参加。その時に吹奏楽部のOB・OGが記念演奏を行っておりましたが、その中でソロを演奏していたトランペット女子が、この青空エールの主人公・土屋太鳳演じる小野つばさ役のモデルだと紹介されました。私もトランペットを吹いていた一人ですが、主人公にはなれませんでした。（笑）

私にとってもブラスバンドは青春であり、またブラスバンドを率いる顧問の先生方のほとんどが、何らかの楽器を演奏する経験者でもあり、もちろんピアノを専攻していた先生もおりますが、青春時代を音楽で走り抜いた方々ばかりであります。

## 3回の楽器調査

吹奏楽部の楽器の調査を初めてを行ったのは平成23年。先生方に事前にアンケートに協力していただき、部員数、部費、消耗品や修理にかかる経費、今現在修理したい楽器や買いたい楽器などを調べた上で、各学校を直接訪問し楽器の状態を見て回りました。

特に先生方の要望は、「新しい楽器を買う予算がほしい」という切実な声でした。どの学校も少ない予算を切り詰めて、部分的な応急処置的修理しかできず、そのためいつも生徒たちは、調子がいいとは言えない楽器を手に、日々練習を重ねています。

他方、近隣町村の吹奏楽部の楽器に対する予算配分は、私もよく耳にしますが、学校の数が違うとは言え、一校あたり百万単位の予算が付いていて、その差に愕然としたものです。

このアンケート調査で修理費を見ますと、吹奏楽部のある全10校の合計は平成23年では約245万円、2回目の平成26年の調査では290万円まで増えておりました。修理費の多い学校では50万円近くを修理費に回していた事実もあります。

この修理費の数字が物語っているように、吹奏楽部の楽器はすでに限界を超えおり、本来ならばオーバーホールするぐらいの修理が必要な楽器ばかりでありました。そこで何かいいアイディアはないものか、それが楽器の集中修理という手法でありました。

## 集中修理の考え方

集中修理の手法は、私の先輩より教えて頂いた、札幌の吹奏楽部ではよくやられているやり方で、何よりリペアマンを直接学校に派遣をし、その場で楽器の修理を、できる限り全体的に見てもらうというやり方。合わせて料金設定は定額（帯広は10万円でやってもらいました）で、できる限り修理すると言う、ある意味こちら側にとっては都合が良く、楽者にとっては過酷な修理であります。

しかしながら、今まで部分的な修理にとどまっていたものを、全体的に見てくれ、例えばクラリネットのタンポ交換だけだったのが、キーのバランスの不具合が見つかればそこも直すといったように、総合的な修理を安価に出来る事がメリットとなります。

## 課題も見えた

実は昨年実施したときにも修理業者から指摘を受けていたのですが、楽器の状態があまりにも悪く、1台の楽器にかかる時間が非常に長くなることを指摘されました。

つまり、もし定期的にメンテナンスを施してあれば、たとえ古い楽器でも、それほど時間がかからずに楽器を見ることが出来ると言うことであります。楽器が壊れてから直すのではなく、壊れる前にメンテナンスをしてくれる、そういう仕組み作りが必要ではないかと思います。

## 昨年は4校集中修理行いました

昨年は大空中学校、南町中学校、翔洋中学校、第一中学校の4校を選定し集中修理を行いました。修理した楽器の台数は表の通りであります。

| | |
|---|---|
| 大空中 | ２５台 |
| 南町中 | ３２台 |
| 翔洋中 | ２４台 |
| 第一中 | ４１台 |

そういう仕組みが未だない帯広ですが、だからこそ集中修理で、楽器1台1台をバランス良く修理、見てもらうことが、今は最善の策だと思っております。市内にある吹奏楽部の楽器をいい状態に保つには、部分的な応急処置ではなく、きちっとしたメンテナンスの回数を増やすことです。

この中で、修理を試みたものの修理不可能というものも何台かありました。しかしほとんどの楽器を要望通りに修理ができ、また出張修理ではあまりやらないような修理も行っておりました。それは、ヤマハ札幌から派遣されたリペアマン2人が、ヤマハ管楽器テクニカルアカデミーを卒業し、リペアコンサルタントとして確かな技術に裏付けられている証左であります。





## 今年は3校集中修理完了

今年は7月4日、5日の2日間で3校行いました。一つはA編成の第五中学校、そしてB編成の第八中学校と緑園中学校です。

### 第五中学校

初日前半は第五中学校（顧問　藤崎博人先生）から修理を行いました。修理会場となった技術室には二十数本の楽器が用意され、それぞれの楽器ケースに、生徒が書いたメモが貼られており、その辺を中心に修理を行います。

まずは木管楽器から始まります。一番手間のかかるのが木管楽器です。特にクラリネットは吹奏楽の中でも数の多い楽器でありますので、重要な位置づけであります。タンポ交換をするときに、キーを分解してみると本体にヒビが見つかったという事もあり、そういう気のつかない補修も出来るのが、こういう集中修理のメリットだと思います。

### 第八中学校

第八中学校は今年第五中学校から赴任してきた澤田幸介先生が顧問を務めており、吹奏楽の顧問は初めてという事でありますが、もともとチューバを吹いていた経験者でもあります。

私のH23年からの調査の中でも一番痛みの激しい楽器があったと記憶しております。今回チューバが3台修理に出ておりましたが、一台はピストンが外れなく、非常に苦労して修理をしておりました。またホルンも細かな溶接が多く、古くなるとその溶接が外れるなどの症状が多いのですが、そういう細かな溶接も綺麗に修理できました。